

●User's Voice●

香港城市大学 中文・翻訳及び言語学部 Heidi Law(羅安碧) 先生

[http://www.cb.cityu.edu.hk/mgt/index.cfm?category=prospective_student&page=IBJ&pagesubtitle=Study%20BBA\(IBJ](http://www.cb.cityu.edu.hk/mgt/index.cfm?category=prospective_student&page=IBJ&pagesubtitle=Study%20BBA(IBJ)

『J.Bridge for Beginners vol.1/vol.2』を必修科目 (Beginning Japanese I/II, Intermediate Japanese I/II) の授業で使用。

香港城市大学の日本語授業の特徴を教えてください。

『J.Bridge for Beginners』を使用しているのは、香港城市大学管理学部で国際商業日本語研究を専攻している大学一年生・二年生である。管理学部では、日本語を専攻する学生は初級日本語Ⅰ、初級日本語Ⅱ、中級日本語Ⅰ、中級日本語Ⅱ、ビジネス日本語Ⅰ、ビジネス日本語Ⅱというコースを順次とるようになっていく。「卒業の時点でN2レベルの日本語力が養われ日系企業に就職できる」という学部の目標に達成するために、初級の段階から実際の運用力が備わった日本語を学べることを重点に置き、ビジネス日本語ⅠⅡへとつながる基礎力を養うというのが、コースの特徴である。しかしながら、学生は日本語関連の科目40単位を履修しながら、管理科学、マーケティング、金融、会計、ビジネス法律などの必修科目(合わせて51単位)も履修しなければならないため、日本語の学習は週に4時間(一年生)～6時間(二年生・三年生)の程度に留まっている。したがって、日本語の学習時間数は専攻としては極めて少ないと言える。

本テキストの採用理由は何でしょうか。

香港では日本語教科書を作っている機関が非常に限られていて、初級の教科書と言えば、ある構造シラバスのテキストを使用するのが一般的である。実際、わたしがこのコースを引き継いだ時、学生はそのテキストを使っていた。市販の教科書は、当時すべて構造シラバスしかなかったため、仕方がなく授業は「文法導入→ドリル→練習」という流れで行っていた。学習者はその課で学んだ文型を使えばいいということを理解していたため、「実際の運用力が備わった日本語を学べる」というコースの特徴に正直合っていない気がした。将来日系企業に就職した際、教科書や教室に出てこなかった語彙や表現、いわば「現実社会の日本語」に遭遇すると、うまく対応できず日系企業の世界で立ち行かないことになりかねない。2008年に、業界の知人に「トピックシラバスによって構造シラバスの不備を補うことができる教科書が発行されている」と聞き、『J.Bridge for Beginners』を購入した。「観察→発見→構造」という、今までの教科書のやり方と全く逆の学習の流れに惹かれ、この教科書の採用を学部に提案し、2009年に使用し始めた。

本テキストを使用した授業時間はどのくらいですか。

- ・授業回数 1冊: 50分×4コマ/週、総時間数約112時間
- ・コース期間(テキスト使用期間) 9月～12月(秋学期) + 1月～4月(春学期) = 28週間

本テキストの長所はどんなところでしょうか。

3つのステップで繰り返すこと: 他の教科書だと、そのトピックがその課で終了したら再びに戻らず他のトピックに進むというのが一般的である。しかしこの教科書は同じトピックを何回も繰り返すので、学習者はその場面で使える単語や構文、表現などを自然に「身につける」ことができる。

登場人物の多彩さが織りなす物語: 特に香港人の主人公(留学生のテレサ・リー)も登場するのでいっそう親近感が増しているように思える。

短期間で語彙を増やす：前述したように、管理学部では日本語の学習時間数が非常に限られている。他の初級教科書で勉強していた学生と比べると、『J.Bridge for Beginners』で勉強する学生は少しヒーヒー言いながら短時間でたくさん語彙を覚えてくれたと感じた。

各トピックごとにコミュニケーションスキルが確実に身に付く：初級の段階でも、自然に生活日本語の内容を兼ね備えていると思う。例えば第9課（「新しい生活」の2回目）では、店員さんの客に対する言葉遣いに敬語が入り、早い段階で学習者にインプットしてあるのがとてもいいと思う。

学生さんからの感想があれば教えてください。

- ・ 恋愛のネタがあっていいですね。他の教科書じゃありません。
- ・ Step2の時、「わたしはこんなにできた」と驚きました。
- ・ ストーリーが楽しい。音声を聞きながら真似したくなる。
- ・ この教科書はいいと思います。他の教科書の本文はとても短いので、足りません。もっと読みたいです。

（コース終了時のアンケートより）

本テキストを使用して、学生さんの力が伸びたと感じられる分野はありますか。

語彙/表現、会話、作文。



香港城市大学 管理学部のみなさんと Heidi Law(羅安碧) 先生